

授業科目(ナンバリング)	認知症の理解Ⅱ(DA216) (実践的教育科目)			担当教員	石橋 亜矢 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。認知症に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。</p>							①⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	脳の機能や高齢者の心理についての理解が深めることができる。 認知症に付随する身体症状や介護についての視点を身につけることができる。				定期試験 プレゼンテーション	50% 10%	
情報収集、分析力	認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。 認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深めることができる。				プレゼンテーション 課題レポート	10% 5%	
コミュニケーション力	認知症の病態を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解することができる。 家族支援、インフォーマル等の地域資源を活かす視点を身につけることができる。				グループワーク	10%	
協働・課題解決力	認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援ができる。				授業態度・参加 課題レポート	10% 5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「定期試験」(50%)は、合格基準は60点以上とし筆記試験(持ち込み不可)を行う。「課題レポート」(10%)は、授業内での課題をレポート化し、提出後フィードバックにて学生と共有する。「授業態度・授業への参加」(10%)は、授業中の態度、熱意、質問に対する返答の仕方等をフィードバックし評価する。グループワーク(10%)では、自分の意見をまとめ、PPを作成しグループでプレゼンテーション(20%)を行う。各教員が100点で評価し、授業回数で配分して最終評価を出す。</p>							
授業の概要							
<p>医療現場で認定看護師・認知症ケア専門士・介護支援専門員等の資格と経験をもつ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。認知症(若年性の認知症も含む)の人に対する対応や支援、その家族に対する支援について学ぶ。認知症が及ぼす生活への影響、生活上の障害への対応についてグループで具体的に考えていく。さらに、今日の認知症を取り巻く様々な状況や課題を把握し、認知症の人とその家族を支える地域社会のあり方等についても学んでいく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新・介護福祉士養成講座12『認知症の理解』 中央法規 発行者：荘村明彦 参考書：『ぜんぶわかる 人体解剖図』成美堂出版 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2018 上 中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>認知症の人や家族の理解者になってほしい。認知症の人とその家族が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、自分にできることから始めて下さい。注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけること。また欠席の場合は事前連絡を行うこと。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	認知症の症状・特徴の再確認	認知症の疾患による特徴や、認知症の症状等、前期に学習したことを確認していく。	予習: 認知症の特徴を調べる 復習: 認知症の特徴や症状を整理する
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	認知症の人に関わる際の基本的な姿勢を学ぶ。	予習: 介護に携わる自分自身の特徴や傾向を考える 復習: 認知症の関わりを整理する
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	認知症への気づきを学ぶ。	予習: 認知症の症状を調べる 復習: 認知症の気づきをレポートする
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③	認知症の人の行動を理解するために、行動や言葉、その背景をどのようにとらえればよいかを学ぶ。	予習: パーソン・センタード・ケアについて調べる 復習: 認知症の行動を整理する
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④	認知症の人の行動の背景にどのような訴えがひそんでいるか、「評価的理解」「分析的理解」「共感的理解」(思考の整理)を通して学ぶ。	予習: 演習シートに記入する 復習: 認知症の行動背景を整理する
6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤	BPSD の不安や焦燥、抑うつ、睡眠障害、妄想等の精神症状と行動障害を再確認し、本人、周囲への影響を考える。	予習: BPSD について調べる 復習: 認知症の BPSD を整理する
7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑥	認知症における終末期の介護を学ぶ。	予習: 認知症における終末期の特性を考える 復習: 認知症の終末期の特性を整理する
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑦	人が生きることを支える際の介護職の役割を学び、認知症についてプレゼンテーションを行う。	予習: 事例を読み自分の感じたことをまとめる 復習: 認知症を支える介護職について整理する
9	家族への支援①	認知症に関する地域の身近な相談窓口の重要性を学び家族支援を学ぶ。	予習: 地域包括支援センターについて調べる 復習: 家族支援を整理する
10	家族への支援②	介護職として気づいたときの対応方法を学ぶ。	予習: : 認知症を抱える家族の思いを考える 復習: 認知症の対応方法を整理する
11	家族への支援③	家族介護者の介護の大変さを知り、レスパイトの重要性を学ぶ。	予習: 認知症を抱える家族支援 (レスパイト) について調べる 復習: レスパイトを整理する
12	家族への支援④	家族間の連携および家族会の役割について学び家族支援についてのプレゼンテーションを行う。	予習: 家族が辿る心理ステップについて調べる 復習: 認知症の家族会を整理する
13	連携と協働①	多職種が協働して認知症の人を支える意義を理解する。	予習: 認知症の人が地域で活用できる資源を調べる 復習: 資源について整理する
14	連携と協働②	介護保険開始後の認知症対策について学ぶ。	予習: 国による認知症施策について調べる 復習: 認知症施策を整理する
15	まとめ	認知症の各課題について発表する。 定期試験について説明する。	復習: 教科書やノートを確認し定期試験に備える